



第 29 号

平成 18 年 10 月発行

通機会 Web ページ <http://www.tsukikai.mce.ucc.ac.jp/>

第 7 期 会長就任挨拶

日本精工株式会社 長竹 和夫 (1975 年卒)



この度、5 月 27 日 (土) の第 7 回通機会総会場で推挙・ご承認をいただき、第 7 期の会長に選任されました。第 6 期の丸田会長の後を引継ぎ、これから 4 年間、副会長の金田さん、金森先生他、学内外幹事の方々と連携して、微力ながら通機会発展のために尽くして参りますので宜しくお願いいたします。

さて、本通機会も会員数が 5,000 名を超える大所帯に発展して参りました。これも、再発起に御尽力された梶谷前学長を始めとします歴代の教職員の皆様方や、通機会幹事の方々の活動のお陰と改めて感謝申し上げます。

本学は平成 16 年 4 月に国立大学法人電気通信大学となり、国からの直接の管理から解放されて早 2 年が経ちました。大学運営は自由に行えるようになった反面で、国からの研究費は徐々に減少されることになり、大学の独自性、研究テーマの企画、研究の質の向上が重要になってくると多方面の方々から聞かされます。月並みな表現ですが、大学のためのみならず、日本が欧米各国、発展途上国の追い上げに屈しないためには大学での基礎研究、企業での応用研究・開発を円滑に行うために、産学連携が重要であることは以前から言われており、そのためにも企業で活躍されている通機会会員各位が知能機械工学科と密接な連携を取ることで、相互に支援を出来る環境作りが必要だと思えます。

会長職を拝命したのをきっかけに、本学の変化を見てみますと、私が在学した 1970 年代、機械工学科の研究対象は金属材料、機械要素・潤滑、振動・音響とファンダメンタルな分野が中心でありました。現在では知能機械工学科へと名前を変え、ロボティクス・メカトロニクスや人間・機械システムなどの研究に大きなウエートが移り、システム、アプリケーションに大きく変化してきたことが窺われます。本学科が 1995 年に学科公認の課外活動として設立したロボメカ工房も 10 年

以上を経過し、学生が自らがもの作り、具現化の喜びを知った上で勉学に励み、世の中に出て活躍する流れが出来ているように感じます。本学科の卒業生は電気の分かる機械屋として、企業に入ってから重宝がられ、各方面でも活躍されています。その方達が集い知能機械工学科の発展のためにご恩返しをするのが通機会の使命と考えます。

今期の主な活動につきましては、これから会員の皆様のご意見を参考に幹事の方々と相談しながら進めて参ります。特に、第 7 期 (2006 年 4 月～2010 年 3 月) が終了する 2010 年には機械系学科創立 50 周年の節目を迎えます。通機会としましては、盛大な記念行事が開催できるよう、学科を強力にサポートしていきたいと思えます。そのために、益々同窓会の活性化に努めて参る所存です。会員各位ならびに教職員の方々の一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第 7 回通機会総会開催報告

副会長 金森 哉吏 (1987 年卒)

平成 18 年 5 月 27 日 (土) 午後 2 時より、電通大創立 80 周年記念会館 (リサーチ) におきまして、第 7 回通機会総会が開催されました。出席者は、卒業生・職員 OB・現教職員 34 名、在校生 9 名でした。当日は、通機会総会、パネルディスカッション、懇親会が行われました。その内容は次の通りです。

通機会総会

はじめに、第 6 期副会長の松村隆氏より開会の挨拶があり、続いて議長選出が行われ、横内康人氏が選出されました。ついで、第 6 期会長丸田芳幸氏より挨拶がありました。その後、松村氏より第 6 期活



動報告がなされました。活動報告内容は以下の通りです。

- ・通機会だよりを 24 号～ 28 号までの 5 号を発行
- ・特別講演会を 8 回開催
- ・田中榮賞授与式が 4 回開催され、24 名が受賞
- ・幹事会を 6 回開催
- ・通機会の現会員数は、5,145 名（内訳：卒業生 4,230 名、大学院学生 198 名、学部学生 622 名、教職員（体育を含む）46 名、元教職員（体育を含む）89 名）

引き続き、会計幹事の金森哉史氏より第 6 期会計報告（別掲）がなされ、監査幹事の中野禪氏より監査報告がなされました。会計の使途、決算内容について満場一致で承認されました。

次に、会則改正の提案がありました。ひとつは、個人情報保護法の施行に伴ない通機会活動の目的を「会員名簿の発行及び配布」から「会報その他の発行及び配布」に変更すること、もうひとつは国立大学法人への移行に伴い「教官」という呼称を「教職員」に変更することです。ここで、会則の第 1 章総則・第 3 条 1 項と、第 2 章会員・第 6 条 3 項を別掲のように改正する案が提案され、満場一致で可決されました。また、個人情報保護方針と名簿の休刊が提案され、満場一致で可決されました（詳細別掲）。

ついで、第 7 期の役員の変更が行われ、会長と監査が選出され、会長より副会長が委嘱されました。次の方が第 7 期の役員です。

- 会 長 長竹 和夫 氏 (1975 年卒)
- 副会長 金田 徳也 氏 (1975 年卒)
- 金森 哉史 氏 (1987 年卒)
- 監 査 瀧澤 正和 氏 (1981 年卒)
- 東木 達彦 氏 (1983 年卒)

役員改選を受け、新会長の長竹和夫氏より、第 7 期の会長就任の挨拶がありました。引き続き、活動計画案・予算案（別掲）が提案され、満場一致で承認されました。

最後に通機会功労賞の授与式が開催されました。この賞は、通機会の活動に対して顕著な功労のあった個人または団体を顕彰し感謝の意を表すことを目的として、新たに設けられたものです。今回は、長年通機会活動に熱意を持って取り組まれ、実務に携わられてきた梶谷誠氏（前学長、名誉教授）、灰塚正次氏（名誉教授）が受賞されました。

パネルディスカッション

通機会総会に引き続き、「ゆとり教育世代の大学教育－大学は社会／学生の要望にどこまでこたえられるか？－」というテーマでパネルディスカッションを行いました。パネラーとして、東京都立南葛飾高等学校教諭の宮本信之先生、知能機械工学科助教授の松村隆先生（1987 年卒）、東芝総合人材開発の中山良一氏（1973 年卒）、トヨタ自動車の岩井健氏（1987 年卒）、新キャタピラー三菱の爲正雄氏（1999 年卒）、知能機械工学科 3 年生の椎名美奈さんと古



関香織さんの 7 名の方に、それぞれのお立場から教育に関する話題提供を頂きました。その後の総合討論では会場からも活発なご意見を頂戴し、たいへん有意義なディスカッションとなりました（別掲記事参照）。

懇親会

パネルディスカッション後、会場を大学会館 3 階のレストラン「ハルモニア」に移して、懇親会を行いました。丸田前会長の挨拶と乾杯で和やかな懇談に入り、懇親の間には酒井拓教授より大学の近況について、会長経験者の下河利行氏、坂田芳幸氏からご挨拶を頂き、その後は 1 期生の菊池正雄氏をはじめほぼ 10 年ごとの卒業生がマイクの前に立ち近況などをお話いただきました。最後に長竹新会長の挨拶でお開きとなりました。

通機会会則

第 1 章 総 則

- 第 1 条 本会は通機会と称する。
- 第 2 条 本会は会員の連絡と親睦をはかることを目的とする。
- 第 3 条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。
 1. 会報その他の発行及び配布。
 2. 講演会、見学会、親睦会の開催。
 3. その他本会の目的を達成するのに必要な事業。
- 第 4 条 本会は事務所を電気通信大学知能機械工学科内におく。
- 第 5 条 この会則に必要な通則は幹事会にて決める。

第 2 章 会 員

- 第 6 条 本会の会員は次の通りとする。
 1. 電気通信大学通信機械工学科、機械工学科、機械工学第二学科、機械制御工学科、知能機械工学科の卒業生ならびに同専攻科もしくは同大学院同専攻の修了生。
 2. 電気通信大学機械制御工学科、知能機械工学科ならびに同大学院同専攻に在学する学生。

3. 上記各学科もしくは専攻の現教職員及び旧教職員。
4. その他幹事会で適当と認めたもの。

第3章 役員

- 第7条 本会に次の役員をおく。
会長1名、副会長2名、幹事 若干名、監査2名、クラス委員 各クラス1名。
- 第8条 会長及び監査は総会において会員中より選出される。
- 第9条 副会長及び幹事は会長が委嘱する。
- 第10条 クラス委員は各クラス毎に選出する。
- 第11条 会長は本会を代表し、副会長は会長を補佐する。
- 第12条 幹事は幹事会の議に沿って会務を処理する。
- 第13条 クラス委員は各クラスと幹事会との連絡を密にする。
- 第14条 監査は会務を監視し総会に報告する。
- 第15条 役員任期は次の通常総会までとする。

第4章 総会及び幹事会

- 第16条 本会の最高決議機関を総会とする。
- 第17条 総会はその議案、日時、場所を会員に周知したうえ会長が招集する。
- 第18条 総会の議事は出席者の過半数によってこれを決める。
- 第19条 通常総会は4年に1回開く。
- 第20条 会長が認めた時または、会員の50名以上から請求があった時は臨時総会を開く。
- 第21条 幹事会は会長が必要と認めた時に招集する。

第5章 会計

- 第22条 本会の経費は終身会費、寄付金、その他をもってこれにあてる。
- 第23条 本会の会計はその収支決算を通常総会において報告しなければならない。
- 第24条 終身会費は金壱万円とする。

第6章 付則

- 第25条 本会の会則の変更は総会の決議を必要とする。
- 第26条 本会則は昭和56年3月7日より施行する。

- 付記 平成2年6月23日一部改正。
付記 平成6年5月14日一部改正。
付記 平成14年5月18日一部改正。
付記 平成18年5月27日一部改正。

通機会第7期役員

(2006～2009)

- 会長 長竹 和夫 (75年)
副会長 金田 徳也 (75年)、金森 哉史 (87年)
監査 瀧澤 正和 (81年)、東木 達彦 (83年)

〈学外幹事〉

- 1964年 大賀 寿郎、梶谷 誠
1965年 下河 利行、灰塚 正次
1966年 川橋 正昭 1967年 猪野 甲
1968年 原 昶明 1969年 坂田 芳幸
1970年 益田 正 1971年 小林 信之
1972年 門山 俣之
1973年 中山 良一、丸田 芳幸
1975年 金田 徳也、長竹 和夫
1976年 市毛 嘉彦
1978年 狩集 二郎、堀 和仁
1979年 長野 滋 1981年 瀧澤 正和
1982年 岸本 哲 1983年 東木 達彦
1985年 三宅 基夫 1987年 中野 禪
1989年 植村 幸生 1992年 大串 浩司
1993年 伊藤 秀樹 1994年 川邊 栄二
1995年 角屋 治 1998年 鈴木 英之
1999年 上村 拓人 2000年 牧山 高大
2001年 内田 敏徳
2002年 稲葉 藍子、大熊 俊司、木之本 剛
2003年 久芳 康弘 2004年 友納 昌則
2005年 佐藤 雄磨、平野 千尋
2006年 古谷 純平、茂木 俊輔

〈学内幹事〉

- 1965年 横内 康人
1971年 小泉 博義
1972年 石川 晴雄 (講演会)、村田 眞
1973年 下条 誠 (講演会)
1987年 金森 哉史 (会計)、松村 隆 (会員管理)
1989年 結城 宏信 (庶務)
1993年 森重 功一 (だより)
1996年 長塩 知之 (会計)
1997年 村上 小百合 (庶務)
2001年 修士卒 瀧脇 大海
2000年 大竹 博 (だより)

※ 記載年は学部卒業年

個人情報保護方針について

知能機械工学科助教授 松村 隆 (1987年卒)
近年、個人情報の取り扱い及びその管理体制が厳しく問われるようになってきました。また平成17年4月1日から「個人情報保護法」が施行され、この法令を遵守する必要があります。通機会は会員相互の親睦を図ると共に、会員皆様の信頼を確保し、会員の個人情報の収集、ならびに保有する個人情報の利用、保全について個人情報保護を目的とした適切な対応をしなければなりません。このため通機会では、「個人情報保護方針」を策定し、第7回通機会総会にて承認されました。今後、この方針に従って個人情報の適正な管理を行い、個人情報の紛失・漏洩などが起きぬよう、予防並び

に安全対策を講じていきます。何卒、会員皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

なお、本件に関する問い合わせは下記までお願いいたします。

電気通信大学知能機械工学科通機会事務局
〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1
FAX 042-443-5386
E-mail: tsukikai@mce.uec.ac.jp

また、通機会が保有する個人情報の取り扱いに関する調査を実施いたします。別紙の調査用紙に必要事項をご記入の上、ご返送くださいますようお願い申し上げます。

通機会個人情報保護方針

通機会は、通機会が収集・管理する会員の個人情報に関して、会員のプライバシー保護と情報の適正管理・利用のため、「通機会個人情報保護方針」を定める。

1. 個人情報の定義

個人情報とは、個人を識別できる情報で、氏名、勤務先・在学校名、住所、電話番号、E-mail等の情報を指す。また、これらの情報のみでは識別できなくとも、複数の情報を組み合わせることにより個人を識別できる情報も含む。

2. 個人情報の取得

個人情報の取得にあたっては、通機会の目的を達成する上で、必要とされる個人情報を適法かつ公正な手段で行い、本人から取得することを原則とする。具体的には、以下の場合となる。

- ・通機会から本人に直接文書で依頼する場合
- ・本人が通機会に個人情報の変更をE-mail、電話、FAXで連絡を頂く場合

例外として、以下に該当する場合は、本人以外の会員等から個人情報を収集することができる。

- ・本人の同意がある場合
- ・本人との連絡が途絶えた場合

3. 個人情報の管理

保有または新たに取得する個人情報は、これを正確かつ最新の状態に保ち、不正アクセス・紛失・破壊・改ざんまたは漏洩などのないよう適切な管理を実施する。

4. 個人情報の利用目的

個人情報は、機密扱いとし、会員の管理および会報の発行など適正かつ公正な通機会の

運営に役立てる目的のみに利用する。

5. 第三者への情報提供

本人の同意を得ることなく本人以外の第三者に個人情報を提供しない。ただし、例外として以下の場合に限り、本人の同意を得ることなく個人情報を提供することができる。

- ・法令等により要求された場合、及び人命・身体・財産等に対する緊急の必要性がある場合
- ・同期会・研究室OB会開催支援など会員相互の連絡仲介で本人の利益と判断される場合

6. 個人情報の開示・訂正

本人から個人情報の開示・訂正の申し出が事務局にあった場合、本人であることを確認の上、登録情報を開示・訂正を行う。

7. 個人情報の利用停止

本人から個人情報の利用目的および第三者への個人情報提供に不同意の申し出があった場合、本人であることを確認の上、個人情報の提供不可とする。

8. 法令等の遵守・個人情報保護基本方針の改定

個人情報に関して適用される法令等を遵守するとともに、法令等の改正に従って、この個人情報保護基本方針を改定するなど、継続的な改善・向上に努める。

9. 問い合わせ窓口

個人情報の取扱いについてのご質問やお問い合わせは、事務局にて行う。

付記 平成18年5月27日制定。

通機会名簿の休刊について

知能機械工学科助教授 松村 隆 (1987年卒)

通機会名簿は4年毎に発行しており、ちょうど本年が第7版の発行年に当たります。しかし、平成17年4月1日から「個人情報保護法」が施行され、個人情報の保護を目的とした適切な対応が求められようになりました。この影響で本学の同窓会である目黒会では名簿が廃刊となり、また他大学の多くの同窓会でも名簿発行の延期・休刊・廃刊の措置がとられています。第7回通機会総会で今後の名簿発行について慎重に審議した結果、通機会名簿を休刊することに決定いたしましたので、お知らせいたします。名簿発刊を心待ちにしておりました会員の皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

パネルディスカッション

第7回通機総会では通常総会に引き続き、パネルディスカッション「ゆとり教育世代の大学教育—大学は社会／学生の要望にどこまでこたえられるか?—」が行われました。パネルディスカッションの企画者である結城宏信氏（電気通信大学）、パネルディスカッションの参加者から、狩集二郎氏（横河電機株式会社）、平野千尋氏（知能機械工学専攻）の御三方に今回のパネルディスカッションで感じたことを一筆お寄せ頂きました。



ゆとり教育世代を迎え入れ始めた大学

知能機械工学科助教授 結城 宏信（1989年卒）

「最近の若者は・・・」という言い方は古代ギリシャのころからあるそうですが、近ごろ大学で耳にする「今年の1年生は・・・」という会話には少し重い意味があります。なぜなら、「ゆとり教育」を志向した学習指導要領で高校の授業を受けた学生が、この春、大学へ入学し始めたからです。しばらく前から学生の気質変化やレベル低下への嘆きが漏れ聞こえていますが、「ゆとり教育」はそれに拍車を掛けるものなのでしょうか？ 通機総会会員の皆さんの職場にも4年後には「ゆとり教育世代」が机を置くことになりそうですから、関心をお持ちの方も多いいと思います。そこで第7回総会に併せ、「ゆとり教育世代」を取り巻く現状を様々な立場から見つめ、大学がどう向き合っていけばよいかを考える場を企画してみました。

はじめに、新学習指導要領によって高校の学習内容がどのように変わったのかを東京都立南葛飾高等学校教諭の宮本信之先生に、現在の大学のカリキュラムの内容を知能機械工学科助教授で教育委員の松村隆先生（1987年卒）にご説明いただきました。次に、企業が機械系学科の卒業生に求めている素養を中山良一氏（東芝総合人材開発, 1973年卒）、岩井健氏（トヨタ自動車, 1987年卒）、爲正雄氏（新キャタピラー三菱, 1999年卒）にお話しいただきました。また、学生の目から見



た大学への期待や要望を知能機械工学科3年生の椎名美奈さんと古閑香織さんに話してもらいました。

盛りだくさんの内容でしたが、知能機械工学科助教授の久保木孝先生の手際よい司会進行で瞬間に2時間が過ぎました。「ゆとり教育」は理系の人材育成にとっては想像していた以上にマイナス面が目立ち、現在のカリキュラムや教育スタイルでさえ、もはや通用しそうにありません。しかし、頼もしい学生が電通大にはまだいることもわかりました。卒業生は言うに及ばず、彼ら現役学生とも一緒になって考えていくことが、「ゆとり教育世代」に対応するための鍵だと感じました。

学生にとって魅力ある電通大であるために

横河電機株式会社 狩集 二郎（1978年卒）

今回のディスカッションで驚かされたのは、現役学生が大学のカリキュラムなどに対する感想・要望などを率直に述べ、魅力ある講義が少ないなどの批判的な意見も含まれていたにもかかわらず、教員側が、その発言を貴重な意見として受け止めている事でした。

ディスカッションを聞いて、今の学生は情報量を多く持ち、意識が高く、早くから個々の人生の目標に対するイメージを持っているような印象を持ちました。受験生もそのようであるとすれば、大学が育てたい人材をあらかじめ明確に提示すれば、自ら選択をし、適した学生が集まるのではないかと思います。

学生が感じる大学の魅力は、講義の魅力で大きく左右されるのだと思います。学生にとって魅力ある講義が、それぞれの希望や目標に則した内容が提供されることだとすれば、受験生に正しく選択してもらうことが魅力ある大学に感じてもらえるための大事な条件のひとつだと思います。学生にとって授業に魅力があれば、教える側のモチベーションも高まり相乗効果を生みます。

大学の情報が受験生に正しく伝わるためには、大学の人材育成の目標を具体的に整理する必要があります。

あります。他大学と比べて、特色があり個性的であるためには、カリキュラム全体の再設計・体系化、各教科間での連携なども必要かもしれません。たやすいことではないかもしれませんが、今回の試みはその難しさを乗り越える希望を感じさせました。

電通大の機械関係学科は工学系の学科として、もともと特色があるのだと思います。その特色をわかりやすい形で受験生にアピールできれば、学生にとっても、大学にとってもより好ましい方向に進むのではないのでしょうか。

学生のニーズに目をむけ、より魅力ある大学にしようと模索する姿を目の当たりにして、電通大の未来は明るいと感じさせるディスカッションでした。

パネルディスカッションに参加して

知能機械工学専攻 博士前期課程 2年 平野 千尋

2006年5月27日の通機会総会に併せて開催されたパネルディスカッションでは、これからの大学教育の在り方について、大学や企業のみならず、学生も含めて様々な意見が交わされ、大変有意義なものでした。私からは「パネルディスカッションに参加して」と題し、学生の視点で失礼しますが、率直な感想を述べたいと思います。

パネルディスカッションでは、学生側から「学科のHPの内容を充実して欲しい」「シラバスの内容を詳しくして欲しい」「入学直後に4年間で教わる授業の全体像を講義して欲しい」との声が出ました。これは「本学科で学ぶことでどのような素養が身に付くのか明確にしたい。さすればもっと学ぶ意欲が湧く」という学生からのメッセージではないのでしょうか。本来“学ぶ意義”というのは学生自身が入学前に模索することですが、悲しいことに、明確な目標を持って在籍している学生は少ないかと思えます。これはゆとり社会の産物なのでしょうか。いずれにせよ、そうし



た部分も大学側が補わなくてはならないことは事実です。また、個人的にはゆとり教育がそうした部分を培うものだと思っていたので、今回、ゆとり教育は結果的にだらけによる学力低下を招いたとの報告を受けて、大変残念に思いました。

他に注目したい点として、大学側から「学生の基礎学力低下に伴い演習科目が増加していることなどを背景に、学生が学ぶ機械工学的知識は浅くなっている」との報告がありましたが、学生側からは「もっと幅広く専門科目を開講して欲しい」との声もあり、不思議な食い違いがあった点です。私も演習時間は講義に必要ないと思います。それは、その分だけ学ぶ知識が減るという理由もありますが、解らない問題が生じたら自分で調べるか人に聞くなりして問題を解決するという、問題解決能力も学生生活で身に付けて欲しいからです。今の学生はそうした部分も欠如しています。もちろん、それでは落第生が増えるとの懸念も生じるので、その分は宿題や追試を行なうなどして救済措置を施して欲しいと思います。学友と相談できるようグループ課題提出などあってはいいのでしょうか。

最後に、どれほど多くの良き人材を輩出できるかは教育側の手腕にかかっていると思います。教育問題は一部の機関が力を入れても効果が無く、社会全体で取り組まなくては改善されない大変難しい問題です。今回のパネルディスカッションを機に、是非とも教育分野の産学連携も実現して欲しいと思いました。

講座紹介

5回目となりました知能機械工学科・知能機械工学専攻の講座紹介も今回が最終回となります。今回は、知能機械工学専攻極限環境機械工学講座、知能機械工学専攻知的生産学講座、共同研究センターについて紹介します。

知能機械工学専攻 極限環境機械工学講座：本講座は宮寄武教授、Hans-Georg Matuttis 助教授、高橋直也助手によって構成されます。大学院留学生の増加を促すために新設された独立講座ですが、卒研究生も引き受けています。助教授にドイツ人研究者を迎えていることも特徴です。宮寄教授・高橋助手は、流体運動に伴う物質・エネルギーの輸送現象を理論・数値計算によって研究しています。様々な空間・時間スケールの渦構造の形成、相互作用と崩壊過程に注目し、その統計力学的性質を調べています。国立環境研究所、理化学研究所、宇宙航空研究開発機構との共同研究を行い、工学的流れ場の精密解析ばかりでなく、大気海洋といった回転成層流体の熱流動特性の解析を行うとともに、高効率な数値計算アルゴリズムの開発にも手を伸ばしています。

The Matuttis group explores the physics of granular materials, especially effects of particle shape, packing and history with experiments and high-performance computer simulations. The inclusion of a Newtonian fluid with the finite element method is under way. Other research interests includes quantum Monte-Carlo simulations of correlated electrons and the non-equilibrium relaxation method.

知能機械工学専攻 知的生産学講座：本講座は、情報基盤センターの教員である高田昌之助教授が知能機械工学専攻の一員として加えさせていただき、研究と教育を行なっております。スタッフは高田助教授一名で、学生は知能機械工学専攻3名、知能機械工学科2名、他専攻院生3名、他学科学部生2名の総勢10名が所属しております。研究の対象は『生産システムの知能化』であり、機械システムに求める「賢さ」として、複数の機械同士が共通の目標の下に協調できること、また将来の状況を有利にするように良い方策を計画し実践できること、などを考えています。この枠組みのなかで、実際の生産の現場でも使えるような、機器制御システムと実時間計画用知能システムの開発に取り組んでいます。現実のものづくりの現場でどのような要求が存在するか、その解決にどのような人の『知恵』が用いられているか、などが判らなければお話にならない研究分野でもあり、企業との共同研究も積極的に行なっております。皆様のお話をお聞かせ頂ければ幸甚に存じます。

共同研究センター 田口研究室：共同研究センターは電気通信大学の産学連携の窓口機関として平成4年に設置されました。平成17年の国立大学法人化に伴い、学部などに属さない「地域・産学官連携推進機構」に存在する2つの本部の内「産学官等連携推進本部」のリエゾン部門という名称

になりましたが、対外的には「共同研究センター」と称しています。共同研究センターには田口助教授が平成8年に着任しています。田口研究室では知能機械工学科の卒研究生をお預かりしています。田口助教授は当初より、ロボットの研究を続けており、これまでの卒業研究は主に移動ロボットに関するものを行ってきました。電通大に着任後には「介護支援ロボット」、「壁面吸着移動ミニロボット」、「管内走行ロボット」、「段差昇降ロボット」、「スケーティングロボット」などを発表してきました。これからも学生諸君と協力して各種のロボットを作っていきたいと考えています。

学内情報速報

「メカノインフォマティクス・カデット教育（副題：「楽力」によって実践力を磨く創造的のものづくりエリート教育）」プログラムが平成18年度文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブに採択されました。

「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育課程の組織的展開の強化）を推進することを目的とするものです。

平成18年度は、国公立大学併せて268件（人社系69件、理工農系139件、医療系60件）の応募があり、理工農系において採択（理工農系の採択数19件、採択率13.7%）されたものです。本教育プログラムは、知能機械工学専攻の松野文俊教授を実施担当責任者とし、今後2年間に渡り全学的な取り組みとして実施されます。

本プログラムの特徴として、1) 機械・電気分野に情報分野を融合した複合領域をカバーする横断型大学院教育、2) 学部特色 GP 「楽力」によって拓く創造的のものづくり教育（楽力：学ぶことや作業することを楽しむ能力）での経験を生かした研究能力の開発および研究指導者の育成、3) プロジェクト研究を自律企画運営でき、課題全体をマネジメントおよび指導する能力の開発、4) 上級者に未修得者を教える資格を与え、教えることにより理解の深化を図る免許制度の正式導入などがあります。こうした観点から、先端制御応用コース、先端メカトロニクス応用コース、先端ロボット情報学応用コースの3つのコースとそれらを横断する形で実施されるプロジェクト実験およびプロジェクト研究を通じて、実践的問題設定・解決能力をもつ真のエリート技術者や研究者を輩出することを目指しています。

ーお知らせー

通機Web ページが下記の URL に移動しました。

<http://www.tsukikai.mce.uec.ac.jp/>

通機Web ページにアクセスされる際はご注意ください。

ー編集係よりー

会員の皆様からの記事を募集しております。ぜひ下記宛先までお送り下さい。

〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1
電気通信大学 知能機械工学科内
通機だより担当 森重、大竹